

があつた。後平八郎は切腹し、左馬助は扶持を離れて事落着した。

イハガフチケンカキ 岩淵喧嘩記 一冊。

文祿元年四月十四日の越中岩ヶ淵の喧嘩に就いて、寛文十三年九十二歳であつた木村藤兵衛の口述を聞いて書いたのだといふ。

イハガミ 岩神 白山記に白山九所の小神

を擧げて、『岩神、馬場谷ニ在之。』と記してゐるが、廢絶して所在は確かでない。馬場谷は、白山宮莊嚴講中記録正中二年の條に馬場在家とあり、元和五年正月三輪志摩の判書に白山宮尻村塔、馬場村とあるもので、その白山宮尻村は今の石川郡白山村であるといふが故に、馬場村はその村内の小名なるべく、そこに塔があつたから塔、馬場村とも言はれたのである。今神主町より白山比咩神社に行く街角から、三宮村の方なる社道の角までをバシバと言つてゐる。岩神は石神であらう。

イハガミ 岩上 能美郡輕海郷に屬する部落。

郷村名義抄には、この村の上に大岩があるから邑名が起つたといふが、岩神が變じたとする説がよい。能美郡名蹟誌に、この村の烏帽子岩は高さ十五間程で、古へそれを神として祀つたといふ。加賀志微には、それを白山九所の中なる岩神だとしてゐるが、當らないやうである。

イハキシロ 岩城司鱈 七尾の俳人。一號

代明。その俳文百物語の序は享保八年の和漢文藻に載せられ、同十一年萬華坊魯九、十二年盧元坊里紅が能登に遊んだ時には之と風交し、寛延四年(寶曆元)の百合野集の跋には登州府岩代明と記して、岩城代明の印があり、同年の石の聲には代明主人司鱈の句が載せら

れてゐる。別項泰藏の父であらう。

イハキセイゴロウ 岩城清五郎 諱は眞、

又諱に作る。字は恭侯、一字は公淳。穆齋・忘我堂主人・禊川漁人、又は秋曠園と號し、岩城泰藏の弟である。清五郎十歳にして書を讀み、精勵人に絶した。十九歳京に遊び、岡白駒に従ひ、次いで皆川淇園に師事し、安永二年二十七歳にして兄の後を嗣いだ。清五郎の家は海參の輸出を業としたが、曾て之を賣して大坂に赴いた時、價格の昇騰するに際し、利する所甚だ多かつたので、清五郎は歸郷の後悉く之を海參の販戸に頒つた。天明の初、所口の更令を濱海に傳へ、凡そ海參を鬻ぐ者は、舊來皆清五郎を経由したが、自今直接藩に販賣することを許すべしと告げたに、漁民は皆舊の如くにせんことを請うた。是より清五郎の令益馳せ、遂に稱して所口の賢人といふに至つた。藩之を聞いて五年その係役を免じ、里背の班に列した。八年五月歿、享年四十二。法蓋宗宜。七尾の西郊尼ヶ谷に葬つた。

イハキセイゴロウ 岩城清五郎 鹿島郡七

尾の人。穆齋の後を襲ぎ、號を西垵といつた。家業を勵み學に志し、詩文を善くし、文政七年以降頼山陽に師事し、又篠崎小竹と交つた。性洒落、その筆蹟も一種の風格を備へてゐる。天保七年九月朔歿、四十二歳。

イハキタイソウ 岩城泰藏 名は白、字は

子明、通稱初め清五郎。能登七尾の人。家を鹽屋と號し、幕府の許可を得て、海參を漁民より購ひ、長崎に輸して官庫に販賣するを業とした。泰藏寶曆三年父の後を承け、學を好み、その商事を以て長崎に往復した際、名聲

イハクワケオウ 石城別王 石衝別命の御

子。雄略天皇の御代に於いて羽咋の國造に任ぜられた。

イハクワケノミコトオンハカ 石城別命御

墓 ↓ハクヒノコフン 羽咋の古墳。

イハク 意伯 本願寺緯如から六代の孫。

その系は緯如・三男玄興・祐慶・兼孝・康惠・二男意伯と繼ぐ。臨濟宗に歸し、加賀傳燈寺金剛院に任して西巖と號した。永祿五年八月二十九日歿、四十八歳。

イハクラゴエ 岩倉越 鳳至郡岩倉山は海

邊に突出する岩山で、これを通過する道は三筋あるが、いづれも非常の難所である。そのうち本道を岩倉越というて、西時國岩倉寺の脇から越える。時國から珠洲郡眞浦まで二軒七許。

イハクラジ 岩倉寺 金澤上石引町に在つ

て、睡虎山と號し、眞言宗に屬する。元和三年僧源建立し、前田利常より寺地を賜はつた。大聖寺侯利明も、亦幼時こゝで痘瘡の祈禱を行はれたから、特に懇志を以て遇せられたといふ。

の著聞する士を訪うて益を請うたが、特に筑前の龜井道載を尊んで之に師事した。安永二年家を弟清五郎に譲り、五年五月廿七日歿した。享年四十四。釋諡宗光。

イハクワケオウ 石城別王 石衝別命の御

子。雄略天皇の御代に於いて羽咋の國造に任ぜられた。

イハクワケノミコトオンハカ 石城別命御

墓 ↓ハクヒノコフン 羽咋の古墳。

イハク 意伯 本願寺緯如から六代の孫。

その系は緯如・三男玄興・祐慶・兼孝・康惠・二男意伯と繼ぐ。臨濟宗に歸し、加賀傳燈寺金剛院に任して西巖と號した。永祿五年八月二十九日歿、四十八歳。

イハクラゴエ 岩倉越 鳳至郡岩倉山は海

邊に突出する岩山で、これを通過する道は三筋あるが、いづれも非常の難所である。そのうち本道を岩倉越というて、西時國岩倉寺の脇から越える。時國から珠洲郡眞浦まで二軒七許。

イハクラジ 岩倉寺 金澤上石引町に在つ

て、睡虎山と號し、眞言宗に屬する。元和三年僧源建立し、前田利常より寺地を賜はつた。大聖寺侯利明も、亦幼時こゝで痘瘡の祈禱を行はれたから、特に懇志を以て遇せられたといふ。

イハクラジ 岩倉寺 鳳至郡西時國に在つ

て白雉山と號し、岩倉寺とも書いた。眞言宗に屬する。もと岩倉比古神社の別當で、觀音を本地佛とした。能登誌に『孝徳天皇の勅願所にて、本地千手觀音は輪島の光浦より上り給ふとぞ。昔は町野郷残らず社領にて大伽藍なりしかど、天正の兵亂に諸堂數多の坊舎炎

上して今僅に残れり。此町野郷に眞言宗の古刹十四ヶ寺あり。皆白雉山と號す。』とあり、當寺には多數の古寄進狀を存する。

イハクラシヨウスケ 岩倉庄助 御歩から

御膳所御歩横目となり、寛政二年小頭として百石を受け、文化元年組外に班した。子孫世世藩に仕へる。

イハクラヒコジンジャ 石倉比古神社 鳳

至郡西時國に在る。式内等舊社記に、『石倉比古神社。式内一社。時國村岩倉山鎮座。郷内十八箇村總社。別當所號白雉山岩倉寺。』といふが、岩倉山とするのは山麓の意であらう。又能登名跡志に『此村に岩倉彦の神社立ち給ふ。御神跡白山權現也。神主瀬野氏也。近郷の宗社にて、又元宮跡として田の中に在り。岩倉山は此の北の山也。』と見える。この神社は今石倉神社と稱する。

イハクラヤマ 岩倉山 鳳至郡西時國の東

方に在る。高さ三五七米。山體石英粗面岩。能登名跡志に、『東に高山あり。岩倉山といふ。海中へさし出る岨しき靈山也。則石倉比古神社也云々。總じて此三(上中下)町野の郷に密宗の寺十四ヶ寺あり。残らず岩倉寺といふ也。則名所記にある宮城山是也。深山木山ともいへり。』とあるが、宮城山又は深山木山といふことは疑はしい。

イハグルマ 岩車 鳳至郡穴水郷之内大屋

庄に屬する部落。能登名跡志に『昔安養寺にて天台の大寺ありし也。今寺號一向宗になりてあり。今も寺の境内に堂の上などの地名あり。五輪石塔等其儘あり。氏神山王權現は美麻那彦の神社也。云々。又出崎に最勝の森とて面白き出崎あり。住吉明神の社あり。風景